

大田区自立支援協議会 防災・あんしん部会議事録

文責：事務局

(1) 会議の名称	大田区自立支援協議会 第10回 防災・あんしん部会				
(2) 開催日時	令和4年9月7日(水) 13:30 ~ 15:30				
(3) 開催場所	障がい者総合サポートセンター A棟5階 多目的室				
(4) 出席した 委員、事務局等	委 員 (部会長：志村 陽子) <敬称略>				
	山内 京子	福田 美和	蛭子 明子	一色 ふみ子	生駒 友一
	北畠 拓也	栈敷 洋子	宇田尻 浩司		
	事務局：森合 美穂、秋山 仁志、大本 哲也、江川 奈保美、堀内 蘭				

1 連絡・確認事項

- (1) 司会・書記の確認(司会・書記：事務局)
- (2) 出欠者・配布資料の確認
- (3) 大田区自立支援協議会交流会について

本日の専門部会内で案内を配布する。締め切りまでに申し込みを依頼する。

2 前回の振り返り

第9回専門部会の議事録・ご意見カードの確認。あんしんカフェの振り返りは、10月の専門部会で実施する。

3 学習会「在宅避難について」

(1) 講師紹介

オーダー防災コーディネーター阿部慶一氏。元東京消防署の副所長。町会役員や、元小学校PTA会長など、地域での活動にも積極的に携わられている。

(2) 内容

- ・防災の対策に正解はない。本人の状況や家族構成、周囲の環境で対策は異なる。
- ・災害に備えるポイントとしては、楽しく考えること、他人に聞くではなく自分で考える、住んでいるところや家族を知る、以上の3つがあげられている。
- ・大田区には91カ所の避難所が指定されている。区が指定する計画では、大田区民の20%が避難できるとなっている。しかし、こちらの計画は狭いスペースで考えられており、実際に東日本大震災の際には、5%程度しか避難ができなかった。平成元年の台風19号の際は、区内特別出張所を避難所として急遽開設したが、それでも十分ではなかった。
⇒これらの経験を踏まえて、防災まちづくり研究会では、「避難せず自宅で過ごす方法」を検討している。
- ・被災した際に重要な事は、まず生き残ることである。そのために、自宅を安全に保つ工夫が必要である。特に、寝室は1日でも長く過ごす場所のため注意した方がいい。そのために、家具は必ず固定する。工事をしなくても、揺れの衝撃を抑えるマットがホームセンターで販売されており、簡単に手に入れることができる。
⇒実演でポットや水筒の下にマットを敷き、揺らした場合の状況を共有した。

- ・インターネットで、自宅の地震の危険度や気象庁による豪雨の状況、大田区のハザードマップといった情報が公開されている。自宅の環境を知るためにも、ぜひ一度確認してほしい。
- ・被災した場合に頼りになるのは、ご近所力といえる。人に繋がるのが、何よりの防災と考えているため、近所へのあいさつや交流は積極的に行ってほしい。
- ・災害対応を自らの問題と問題として考え、様々な意見や価値観を参加者同士で共有するクロスロードゲーム (Yes/No) を行った。

(ゲーム一部抜粋)

- ・あなたには、知的障がいの息子がいる。町会役員から災害に備えて障がいがある人を把握しておきたいという申し出があった。プライバシーが知られるのは嫌だが、災害の時に助けてもらいたい。あなたは障がい者がいないと答えるか。
- ・あなたは呑川沿いのマンション5階の住民。激しい雨が降り続き、洪水の危険があり避難勧告が出た。現在 20 時。マンション管理組合から、1 階の住民を避難させてほしいと要請があった。あなたは受け入れるか。
- ・防災は日頃の取り組みが災害時に現れるからこそ、救ってくれるのは日頃の取り組みのため、意識してほしい、

※次回の日程

専門部会：令和4年10月5日（水）13時30分～15時30分 さぼーとぴあA棟5階多目的室